



「乾癬（かたせき）」 という皮膚の病気を どう存知ですか？

日本の乾癬の有病率は複数の報告から0.1～0.3%と推定されますが、砺波市だと4.9万人中50～100人の患者さんがいる計算です。遺伝的影響もあると言われていますが、はっきりとした原因遺伝子は見つかっておらず、受け継いだ遺伝子情報が一卵性双生児でさえ、発症する方と発症しない方の兄弟がいます。その一方、環境因子も昔から重要視され、糖尿病、高脂血症、高血圧症との合併が多いと

いう報告もあります。

乾癬の皮疹（皮膚の病変のこと）は特徴的なので、皮膚科医なら一目で診断できることが多いです。人目に付く部分に皮疹があると、周囲の目が気になりストレスを感じている方も多いのです。

20年くらい前は、「命に関わらないから」とか「治らないから」と、積極的な治療をあきらめた医者や患者さんも多いようでしたが、今までの研究で「命に関わらないから」と言えなくなってきました。それは、全身に皮疹のある患者さんは、脳梗塞や心筋梗塞のリスクが、より高いことが明らかになってきたからです。

しかし、近年、飛躍的な改善が目指せる新しい治療法が登場し、広範囲な皮疹だけでなく、人目に触れることで受ける患者さんのストレスも解消すべきと考えられるようになってきました。

「乾癬」は4種類に分類されていることが多いです。

①尋常性乾癬（「乾癬」全体の90%）

非常に特徴的な皮疹が、手のひらサイズ程度しかなく方から全身の1～2割になる方まで様々です。病

気の勢いに波があり、季節や体調によって広がったり小さくなったりします。

②関節症性乾癬

尋常性乾癬の特徴ある皮疹に加えて、関節炎が合併している状態です。関節痛は指の関節が腫れて痛くなる方や、腰や首が痛くなる方がいます。また、指の爪が変形したり、額に厚い皮がついた皮疹ができます。

始まりは関節がちょっと痛いだけかもしれませんが、関節リウマチと同様に症状が進行すると関節の変形が起こります。

③膿疱性乾癬

発熱を伴い全身に膿みが貯まった水ぶくれが広がり急速に悪化する状態です。

年に3～4回くらい急速に悪化することがあり、入院治療が必要な場合があります。

④乾癬性紅皮症

尋常性乾癬の皮疹がほぼ全身に及んでいる状態です。からだ全体で厚い皮が繰り返し剥がれます。新しい皮膚を作り続けなければならぬため、どんどん体力が奪われます。

治療方法は大きく分けて4つあります。

- (a) 外用剤治療
- (b) 内服治療
- (c) 紫外線治療
- (d) 生物学的製剤の注射・点滴

(a)^(b)^(c)^(d)の順番で、経済的負担と身体的負担（通院回数や副作用のリスク）が大きくなりますが、以前と比べて「新しい外用剤」「より効果的な紫外線治療」「新機軸の生物学的製剤」が登場してきました。

また、今後は「生物学的製剤」の選択肢が増え、「治る」が目指せる病気になりつつあります。

思い当たる皮疹や関節痛がありましたら、まずは、かかりつけ医にご相談ください。